

チューリップの花芽分化状況について(8月10日現在)

平成29年8月14日

経営普及課

(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要3品種のデータを紹介します。

1 供試球根(調査品種)

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	球周	初期乾燥	貯蔵	調査球数
プレルジューム(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
イルデフランス(SL)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
メリーウィドー(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球

2 花芽分化の状況

- (1) 本年の花芽分化は、いずれの品種も前半はかなり緩慢であった。7月下旬以降は急速な進展が見られたものの再度鈍化が見られ、依然として平年に比べて10日以上遅れている。また、調査個体間のばらつきも多い(添付ファイル表1、図1)。
- (2) プレルジュームは雌ずい分化始期(G1)～柱頭分化期(G2)のまま停滞、イルデフランスは雌ずい分化始期(G1)～柱頭分化完成期(G3)のまま停滞しており、平年に比べて10日以上遅れ。メリーウィドーは分化始期(Ⅱ)～外雄ずい分化期(A1)のまま停滞しており、平年に比べて20日以上遅れている(添付ファイル表1、図1)。
- (3) ノーズの伸長も花芽分化と同様に平年に比べて10日～20日以上遅れている(添付ファイル表1、図1)。
- (4) 花芽分化開始条件の1つであるりん片含水率の低下については、7月10日定期調査では、品種によりばらつきがあるものの、3品種平均で58.5%と平年値(55.7%)に比べて高く、過去9年では2番目に高かった(添付ファイル図2)。
- (5) 6月と7月の平均気温による花芽分化のタイプは、平年に比べて6月の平均気温がかなり低く、7月の平均気温がかなり高かったため、花芽分化予測図に当てはめると今年は「遅延型」と推測される(添付ファイル図3)。

3 今後の技術対応等

- (1) 冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理の無い計画とする。
- (2) G段階(雌ずい形成期)に達していない球根や、G段階に達していてもノーズが小さい場合には中温処理を行ってから冷蔵を開始する。その際、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

4 具体的データ

添付ファイル「T170810data(花芽)」参照

※ 次回の生育情報は、8月15日調査の第8報(最終)をお知らせする予定です。